

今月の表紙「アイビー」

つる性の常緑低木アイビーは、正式には「ヘデラ」と言い、緑色の葉が白い斑で縁取られているのが特徴です。500種以上あるとされ、種類によっては斑のないものや黄色い斑が入ったもの、葉の形がハート形・星形・丸形・カール形のものなど、いろいろあります。



副代表幹事
教育問題委員会 委員長

北山 禎介

三井住友フィナンシャルグループ
取締役社長

自由と規制、そして規律

銀行の自己資本規制を中心とする国際的な金融規制強化の議論が具体化しつつある。今般のグローバル金融危機の背景には、米国の住宅金融を主な舞台としたマクロ的な信用バブルの膨張に加え、証券化やデリバティブ等の金融イノベーションの進展に、金融機関のリスク管理や当局の規制監督が十分に対応できていなかったことがあった。危機の拡大過程では、欧米銀行の流動性や資本に対する懸念が拡がり、巨額の公的資金が投入された。

一連の規制強化は、こうした反省を踏まえたものであるが、懸念されるのは、危機の再発防止を狙いとした規制強化が積み上げられた結果、過剰規制となり、金融仲介機能の低下を招いて实体经济に悪影響が及ぶことである。とりわけ、国際的な銀行自己資本規制については、さまざまな形での規制強化が打ち出されており、これらがすべて実施された場合の影響は大きい。今後、実施される金融規制の影響度調査やマクロ分析によって、規制強化の便益と副作用について十分な吟味がなされることが望まれる。

ところで、今回の金融危機の根底には、本来、経済のインフラないし黒子として他の産業や家計をサポートすべき金融業が、自らの利益を極大化するために、購入した高リスク資産を担保に資金を調達し、投資を膨らませるといった形で自己増殖していった、という問題があった。歴史を振り返ると、日本を含め多くの国でバブルの発生と崩壊が繰り返されており、その背後には人間の「欲望」に根差した過度なリスクテイク行動があった。問題が発生するたびに規制や制度は見直され、人も学習してきたはずであるが、それでも危機が繰り返されるのは、危機が^{かたち}貌を変えて現れ、人も苦い経験を忘れて欲望に抗し切れないからであろう。

今回の危機は、市場原理主義の帰結であるとの指摘もあるが、レッセ・フェールで知られる経済学の父アダム・スミスは、個人の利己心に基づく利益追求が社会に繁栄をもたらす前提条件として、個人の野心が正義感によって自制されている必要があると考えていた。ある米国の大手金融機関のトップは、「いずれ音楽は鳴り止むだろうが、音楽が鳴っている間は踊り続けなければならない」と弁明していたが、この言葉をアダム・スミスが聞いたら、どう思ったであろうか。

Contents

- 01 巻頭言
北山 禎介
「自由と規制、そして規律」
- 02 2010年 年頭見解
民の力を発揮して持続可能で活力ある
経済社会を築く
- 04 特集
経済三団体
新年祝賀パーティー
合同記者会見
座談会
国民が支える
国民のための農業を!
- 15 リレートーク
松井秀文「小児がんとゴールドリボン運動」
- 16 世話人インタビュー
経済懇談会 三浦 浩
鍋島 英幸
- 17 経済同友会最前線
第23回 民間経済団体国際会議報告
2009年度
全国経済同友会 代表幹事円卓会議
仙谷 由人 内閣府特命担当大臣 講演
「地域主権と道州制を推進する国民会議」
設立総会
原口 一博 総務大臣 講演
- 24 コペンハーゲン通信
「COP15の現場から」
- 26 同友会スケッチ
2009年11月・12月の記録と
2010年2月の予定
- 29 新入会員紹介
2009年11月20日現在の入退会者
- 30 私の思い出写真館
小野 俊彦「ISSF京都会議」